

# 採材計画策定支援ソフトウェア OWLProcessor

## 概要

- 立木の丸太価格は、需要に応じた末口直径と長さで切られ、共販所(土場)でセリにより決められているのが現状である。そこで、伐倒する前の立木の状態で、出材と価格予測を可能にすることができれば、「立木資産情報の見える化」が可能になり、経営計画の更なる効率化を図ることが可能になる。
- 森林3次元計測システムOWLは地上レーザ計測により樹幹形までも3次元点群で取得が可能であり、立木の基本データ(樹種・立木位置・胸高直径・樹高・材積等)の他に、形状データ(高さ毎の中心位置(曲がりを示す)と直径のデータ)を出力することができる。
- システムの処理プロセスは下記の通り。
  - ①各種条件設定(例:切り出し高さ・切り出し余裕・最少末口径・切捨て長・バイオマス単価 等)を行う。
  - ②OWLで計測した立木毎の基本データ・形状データ、丸太の樹種及び品質(等級)毎の価格表データ読み込む。
  - ③3つの採材手法:「最適計算」・「長さ優先」・「長さ指定」を選択して、採材計算を実行。立木毎の採材方法、樹種毎の採材結果<末口径・品質&長さ毎の本数>と収入<品質毎の材積と価格>を表示・エクセル出力。
- 現在、モニター販売を通して実践運用を行いながら2020年4月の販売を予定している。

## 導入効果

- 立木の状態で森林資産を知ることができることから、長期的且つ安定的な林業経営計画が可能。
- 今後、造材機械の造材データや丸太輸送コストデータ等との連携により、更なる最適化に取り組むことが可能。



Advanced Intelligence

## ○対象品目

水稲	畑作	露地野菜	施設園芸	果樹	茶	花き
酪農	肉用牛	養豚	養鶏	飼料作物		
沿岸漁業	養殖業	沖・遠洋漁業	その他水産業	<b>林業</b>		その他

## ○該当するニーズ

項目	林業(1)計画
技術ニーズ	施業計画・提案
具体的なニーズの内容	伐採対象林分の収益を予測するシステム

## ○開発等の段階

開発/実証中	
モニター販売中	○
一般販売中	2020年4月販売予定
その他	

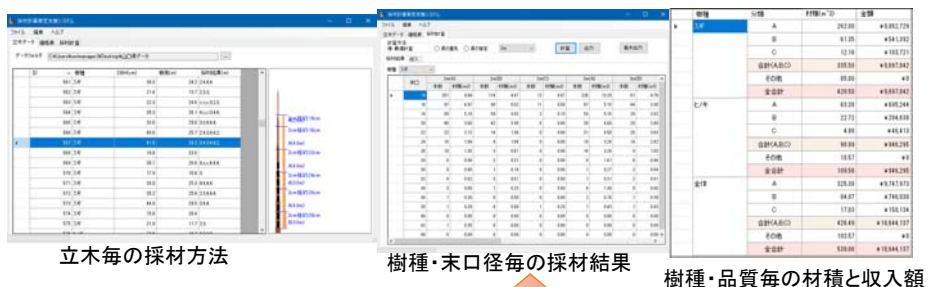
係数などの入力値に応じて金額や合計を自動的に計算



胸高直径  
樹高  
材積  
バイオマス

OWLで計測したデータをOWLManagerで解析  
調査範囲の選定、データの管理

OWLManagerで解析した結果の基本データ及び形状データを読み込み

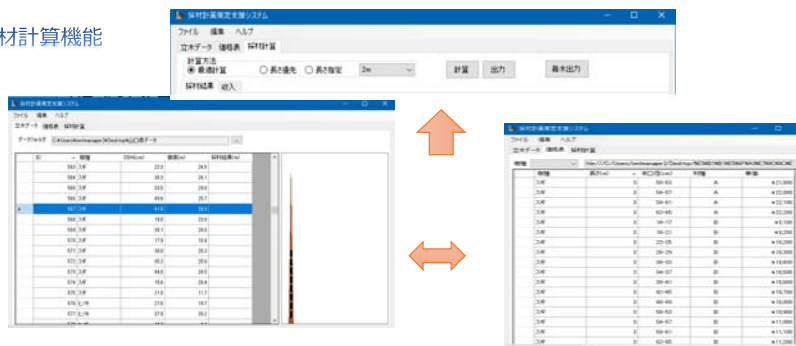


立木毎の採材方法

樹種・末口径毎の採材結果

樹種・品質毎の材積と収入額

## 採材計算機能



立木データ(基本データ+形状データ)

価格表

エクセル出力

## 連絡先

(株)アディン研究所 製品サービス事業部  
TEL:03-3288-7835  
<https://www.owl-sys.com/>  
owl@adin.co.jp

お問い合わせフォーム



情報記載日:2019年11月29日